

平成24年第2回定例会（12月議会）  
建設部 提出資料

建設委員会

【所管事項】

- 建設政策課 「秋田県建設産業振興プラン（仮称）」  
の策定について・・・・・・・・（別冊）
- 河川砂防課 成瀬ダム建設に関するダム検証について・・・・・・・・ 1

# 成瀬ダム建設に関するダム検証について

平成24年12月5日  
河川砂防課

## 1. 概要

ダム事業については、ダム以外の幅広い治水対策案を立案し、総合的に評価する「ダム検証」が平成22年度から行われており、国直轄の成瀬ダム事業も東北地方整備局が検討主体となって検証を実施している。

## 2. 成瀬ダムの検証に係わる検討スケジュール



### 3. 「第5回検討の場」の概要

開催日：平成24年11月20日（火）

場 所：大仙市大曲地域職業訓練センター

#### (1) 東北地方整備局からの説明

①学識経験を有する者及び関係住民からの意見を聴く場の概要について  
**第4回検討の場の後、これまでの検討結果をとりまとめた「検討報告書（素案）」を作成し、学識経験を有する者及び関係住民からの意見聴取を実施した。**

- ・ 関係住民からの意見を聞く場（H24.10.22・24・27 3会場 発言者9名）
- ・ 学識経験を有する者の意見を聞く場（H24.10.30開催）
- ・ 電子メール等で寄せられた意見（H24.10.5～11.2 23名）

②対応方針（原案）について

学識経験を有する者及び関係住民からの意見聴取結果を踏まえ「検討報告書（原案）案」が作成され、**成瀬ダム建設事業は「継続」することが妥当であると考えられる**という対応方針（原案）が示された。

#### (2) 出席者（関係地方公共団体）からの主な発言

- ・ 今年の渇水状況を見ても正常な流量を確保する意味から、成瀬ダムを進めていただきたい。
- ・ 県内ではゲリラ豪雨と渇水という相反する自然現象が交互に発生しており、防災上の問題・水資源の問題の観点から苦慮している。この対応やダムそのものを資源として、県の政策を遂行する上でもスピード感を持って成瀬ダムの完成を進めてもらいたい。
- ・ 今年の渇水による水道用水の問題、一昨年の洪水と被害を目の当たりにしている。ダムの本体工事を早く進めてほしい。

### 4. 対応方針決定までの手続き

- ・ 東北地方整備局長から11/15付け文書にて関係地方公共団体の長及び関係利水者に対し意見聴取  
→対応方針（原案）に対し「異存なし」の旨、11/20まで回答済。
- ・ 東北地方整備局事業評価監視委員会開催（H24.11.22）  
→対応方針（原案）を審議し、「事業継続」が妥当。
- ・ 東北地方整備局は、対応方針（案）を国土交通省に報告。（H24.11.26）
- ・ 有識者会議の意見を聴き、国土交通省による対応方針を決定する。

## 成瀬ダム建設事業経緯について（参考）

成瀬ダム建設事業の経緯

年 月	事 業 経 緯
昭和48年 4月	予備調査着手
昭和58年 4月	実施計画調査着手
平成 9年 4月	建設事業着手
平成11年 5月	環境影響評価書の公告・縦覧
平成13年 5月	「成瀬ダムの建設に関する基本計画」の告示 (総事業費：約1,530億円、工期：平成29年度)
平成13年11月	成瀬ダムとして工事に着手(下流工事用道路)
平成14年 4月	水源地域対策特別措置法第2条による指定ダムに指定
平成15年 3月	東成瀬村(村有地)との土地売買契約締結
平成16年10月	下流工事用道路一部供用(約2.4km)開始
平成17年 3月	国道342号付替工事着手(1号トンネル、1号橋)
平成20年 1月	雄物川水系河川整備基本方針の策定
平成21年 3月	転流工着手
平成21年12月	下流工事用道路(約3.3km)完成
平成24年 4月	国道342号付替一次供用区間(約4.2km)開通
平成24年 8月	転流工完成



成瀬ダム事業進捗状況(平成24年9月末時点)

「成瀬ダム建設事業の検証に係る検討報告書(原案):東北地方整備局」を元に作成